土木学会論文集 No. 476／Ⅳ-21, pp. 95~96, 1993. 10

[研究室紹介]

# 早稲田大学計画系研究室

理工学部土木工学科

都市計画研究室　中川義英
交通計画研究室　浅野光行

## はじめに

早稲田大学土木工学科は1943(昭和18)年に設立され，我国の大学では6番目，私学で2番目の設立となっている．土木工学科は創設当時の旧制大学（定員50名）から新制大学一，第二理工学部併設時代（定員1理80名，2理40名）を経て，現在の理工学部土木工学科（定員100名）に変わってきているが，この間の卒業生総数は約4,800名に達している．また，大学院前期課程（修士コース）修了者は約900名，後期課程修了者（博士コース）は33名である．現在までの卒業生の就職先は約25%が官公庁，約45%が建設会社，さらに約20%が土木関連の一般会社やコンサルタント会社となっている．

早稲田大学計画系の歴史は石川栄耀先生の招聘をもってはじまる．終戦後直ちの1945（昭和20）年10月から非常勤講師として早稲田大学で「都市計画」の講義をおこなっていた．1951（昭和26）年4月，早稲田大学大学院工学研究科に建設工学専攻都市工学専修が設けられ「都市計画研究室」が発足した．この新制大学の発足にともない，専任教授として大学院生の指導（建築計画専修の学生を含む）および学部における都市計画の授業を担当された．以来，先生が他界される1955（昭和30）年まで都市計画への多大な寄与とともに開設初期の学生を育て，早稲田計画系の基盤を創出された．

現在まで，計画系の卒業論文を履修した学部の卒業生は440名に達し，計画系修士論文を提出し，社会で活躍している大学院修士者は117名を数えるに至っている．この中には1967（昭和42）年以降，11名の修士課程修了の留学生が含まれている．

なお，大学院は建設工学専攻都市計画専修と名称を変更し，現在は土木工学専門分野都市計画部門の中に「都市計画研究」,「交通計画研究」,「都市防災計画研究」(3か年間の予定)，の3つの研究指導をおこなうに至っている．

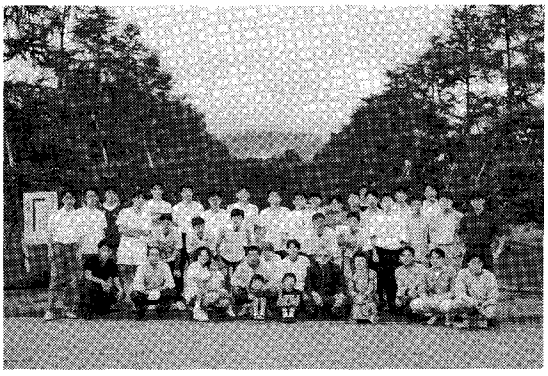
石川栄耀先生の後を受けて，1957（昭和32）年に松井達夫先生が専任教授として嘱任され，1975（昭和50）年に退任されるまで非常勤講師の時代を含め約20年間早稲田の「都市計画」の教鞭をとられ，多岐にわたる研究成果を残されている．その間の1968年には社会科学研究所「21世紀の日本・早稲田大学グループ」の結成にともない，代表になられるとともに，学内における学際的研究交流に大きな足跡を残され，その精神は現在に引き継がれている．

1975（昭和50）年には大塚全一先生が三代目の専任教授として嘱任され，「都市計画」および「国土及び地方計画」「交通計画」等の授業を担当された．大塚先生は10年間の在職中，多くの卒論生，修論生を指導するとともに8名の博士（課程内5名）を誕生させており，その中に現在の専任である中川義英，浅野光行が含まれている．また，1980（昭和55）年に中川義英が助手となった．

1985（昭和60）年に大塚先生の後を受けて本学出身としてはじめて中川義英が助教授として研究室を継続された．同年に大学院教育の充実を図るため，東京都に活躍された鈴木信太郎を大学院講師として迎え，その貴重な経験を教育に反映して頂いている．また，1991（平成3）年に中川義英が教授に昇格し，森本章倫が助手になった．

本年（平成5）年には，新たに交通計画研究室が発足し，浅野光行が建設省建築研究所から土木工学科に教授として嘱任された．土木工学科の計画系の一層の充実を図る上で不可欠の2研究室体制が整った．また，同時に棚橋一郎が大学院の客員教授として嘱任され，国際技術協力も含めた「防災都市地域論」の講義と「都市防災計画研究」の指導を担当している．

なお，近年建築学科の都市計画研究室と共同で，1988年11月に，「首都移転」を主題としたシンポジウムを開催し，その後1990年4月に「東京のグランドデザイン——私たちは提案する——」のシンポジウムを，そして1993年7月には「地域から望む，もうひとつの世界像」と題して公開シンポジウムを実施してきている．今後より一層，社会に情報発信するとともに開かれた計画系の創造を目指していきたい．



計画系研究室のメンバー（'93年追分合宿にて）
（教授2，講師1，助手1，D1，M8，B24）

## 中川研究室

本研究室は1985（昭和60）年に大塚全一先生（現：㈱トデック顧問）の退任をうけて，石川栄耀先生以来4代目の都市計画研究室として発足した．

学部の授業は「都市計画」「都市システム解析」「地域整備計画」を担当するとともに，学部1年生に「測量実習」を指導している．また，大学院では「都市計画特論」「都市計画特別実習」の講義ならびに演習をおこなっている．

本年度の研究室は中川教授，森本助手，博士課程1名，修士課程8名，学部4年生12名の計23名で構成している．

研究室は家庭的雰囲気？　をもとに，院生と学部生のペアで研究活動を行い，年2回の中間発表を経て，2月の修論・卒論提出に日夜頑張っている．また，地域に根ざした計画として実際に現地に出向いては，調査報告の形でまとめる一方，各自の研究テーマに基づく論文をまとめようとしている．

本研究室の研究テーマは単年度の研究から数年継続された研究と非常に多岐にわたっているが，ここでは近年の研究テーマに着目すると，下記のようになる．

**（1）　土地利用計画**

都市における著しい交通混雑を緩和するため，交通の発生源に着目し，土地利用規制を通して望ましい都市構造を探究している．特に，既存の交通容量からみて混雑が緩和される容積率の設定方法を研究している．また，土地利用の推移モデルを構築し，容積率の推移パターンを検討することで，都市の成長管理にたいする一つの指針を模索している．

**（2）　地区内整備**

地区整備として地区全体がおりなす地区景観のあり方を研究するとともに，住環境評価の方法についてCG（Computer Graphics）を利用しながら研究を進めている．また，地域の面的整備のあり方の研究を進めている．これによって，地区全体を総合的に整備誘導する際の一つの指針を導き出すことを目的としている．

また，地区内の街路ネットワークの研究を行い，トラフィック機能・アクセス機能といった街路機能の改善と良好な地区環境の創造について取り組んでいる．

**（3）　交通行動分析**

交通の利用の仕方を種々の面から研究することで，円滑な交通流と良好な都市環境の創造を目的にしている．近年の研究としては，非日常的な休日交通の特性の探究を行い，都市内の地域性による相違点や観光地の交通行動について調査，分析を行っている．また，物流情報システムの検討や物流施設整備の研究を通して，効率的な物流体系のあり方について検討している．今後は，駐車場に着目し，駐車場案内システムの研究や新市街地の駐車需要予測に取り組む予定である．

## 浅野研究室

土木工学科内の交通工学関係は当初，廣瀬一郎先生（鉄道），兵藤直吉先生（道路），沼田政矩先生（鉄道・施工）であったが，鉄道部門は現在専任はなく，道路は森麟（土質施工）が担当してきた．また，「交通工学」「交通計画」の講義はこれまで吉岡昭雄先生，菊田聰裕先生，大塚全一先生，中川義英が順次担当してきた．しかし，交通計画研究室としては，土木工学科内ではじめての設置で，本年4月からの新スタートとなっている．

学部の授業は「交通計画」「交通システム工学」「交通施設整備計画」及び「土木計画」を担当している．また，大学院では，「交通計画特論」「都市基盤施設特論」の講義および演習を行っている．

現在の体制は浅野教授，学部4年生12名の計13名で構成されている．本年度の発足のため大学院生が在籍していないが，来年度には5名の学生が進学する予定であり，今後の発展が期待される．

なお，本年度の学部4年生が行っている卒業論文の研究テーマは下記の通りである．

（1）　交通施設整備
- 駅前広場の利用特性と施設構成
- 環状道路の機能と役割
- 観光交通特性と道路交通円滑化

（2）　交通運用改善
- 専用・月極駐車場の休日開放
- 渋滞情報と渋滞状況
- バリアフリーの現状と課題

（3）　交通モデル
- 発生集中交通モデルの都市圏比較

（1993.8.24受付）